

<b>Title</b>	長老会神学大学校における総長就任式
<b>Author(s)</b>	宮本, 悟
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-3 : 20
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2315">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2315</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

# 長老会神学大学校における総長就任式

宮本 悟

2009年9月24日に聖学院大学の韓国における提携校の一つである長老会神学大学校で新しい総長が就任し、10月8日に総長就任式が行われた。総長に就任したのは、総長署理であった張永日教授である。署理とは、組織で欠員が発生した場合にその職務を代行する地位である。長老会神学大学校では、2008年9月30日に前総長である金重恩教授が退任した後、約1年間、総長が空席であった。理由は、次期総長選挙で、張永日教授に対する賛成と反対が同数であったためである。再選挙までの間、宣教神学担当の李光順教授が総長代理を務めていた。再選挙で選ばれた張永日教授は、2009年2月23日に総長署理に就任し、理事会での承認を経て、この度、正式に総長に就任したのである。

就任式は、長老会神学大学校のチャペルである韓景職記念礼拝堂で行われた。ここでは、平日に午前11時15分から12時まで礼拝が行われ、主日に広壮教会による礼拝が行われる。就任式は平日礼拝と共に行われたため、Ⅰ部とⅡ部に分かれていた。Ⅰ部は平日礼拝であり、Ⅱ部が正式な就任式である。平日礼拝の内容は普段と変わりはない。異なるのはチャペルの雰囲気であった。就任式であるため、入り口や壇上には、贈呈された数多くの花輪が飾られていた。聖学院大学からも「学校法人聖学院理事長 大木英夫」と「聖学院大学学長 阿久戸光晴」の名義で花輪が送られた。韓国の花輪にはピンク色の二つのリボンが付いており、一方には送る方の氏名、もう一つには受ける方の氏名が書かれている。ただ、今回、大木先生の花輪には、特に指示しなかったにもかかわらず、オレンジ色のリボンが付けられ、一層目立っていた。筆者も、聖学院大学を代表して貴賓席に呼ばれ、多くの高名な方々と共に、就任式に参席させていただいた。

さて、11時15分から始まった礼拝は普段通りに12時に終了し、すぐさまⅡ部である就任式に移った。就任式は30分ほどの短いものであった。司

会者である学校法人長老会神学大学校理事長の姜信元牧師による開式辞から始まり、祈祷、新総長の略歴紹介と続いた。次に、張永日教授が就任誓約を行うと、姜信元牧師による就任の宣言、そして印と鍵の引き渡しが行われた。当初、やや緊張した趣があったが、張永日教授が鍵を落とすといったハプニングもあり、和やかな雰囲気へと変わりつつあった。続いて、新総長である張永日教授の就任辞があり、主なる神様への感謝と就任に際しての抱負が語られた。それを祝福するために教会音楽学の担当である李明信教授による独唱の祝歌、さらに名誉総長である李鍾聲牧師による祝辞があった。祝辞の内容は堅苦しいものではなく、李鍾聲牧師と張永日総長がともに上背がないために苦労した話など、むしろ参席者の笑いを誘うものでもあった。

その後は、新総長への記念品や花束の贈呈、法人事務処長である薛泰柱氏からの挨拶があり、無事に総長就任式は終了した。最後に、参席者全員で校歌を歌った後、オルガンの後奏によって、貴賓席で多くの方々と握手を交わしながら、新総長たちは退場していった。

就任式が終了した後、韓国の行事らしいイベントがあった。すべての教官や学生、招待者に食事が振る舞われたのである。学生食堂と教員食堂は無料となり、自由に食事できるようになっていた。韓国では、惜しみない食事で歓待することが最高の接待である。さらに、教員食堂で食事をした方々に、張永日総長の著書が配布された。就任式そのものは短いものであったが、このイベントによって、数多くの教官や学生、招待者が参加した長老会神学大学校の一大行事であることを再認識させられた。

(みやもと・さとる 聖学院大学総合研究所准教授)